

石巻市内で活動している社会福祉法人のご紹介

第12回インタビュー

社会福祉法人みやぎ会 きたかみ・はしうら

平成28年4月から改正社会福祉法により、社会福祉法人による「地域における公益的な取組（社会貢献事業）」の実施が法人の責務として位置づけられました。

この取組は、次の3つの要件をすべて満たすことが必要となります。

- (1) 社会福祉事業または公益事業を行うに当たって提供される「福祉サービス」であること
- (2) 「日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者」に対する福祉サービスであること
- (3) 無料または低額な料金で提供されること

具体例としては

- ・ 夏祭り等、イベントの開催による住民間のつながりの再構築
- ・ 働き手が少ない商店街との連携による就労支援
- ・ 公共交通機関がない地域での移動支援や買い物送迎支援
- ・ 災害支援ネットワークによる避難所支援
- ・ 刑余者の自立支援に向けた自立準備ホームの登録

などが挙げられます。

石巻市内にはたくさんの社会福祉法人がありますので、実際にどんな社会貢献事業に取り組んでいるのか、順番にご紹介していきたいと思っております。

今回は「社会福祉法人みやぎ会 きたかみ・はしうら」さんをご紹介します。

インタビューにお答えくださった方は、特別養護老人ホームきたかみ、施設長の武山泰徳さん、事務部長の佐藤圭一さん、介護主任の澤村めぐみさんの3名です。

社会福祉法人みやぎ会

- 法人所在地 青森県八戸市大字河原木字八太郎山10番地81
- 事業所所在地 特別養護老人ホームきたかみ：石巻市北上町橋浦字大須234番地
特別養護老人ホームはしうら：石巻市北上町橋浦字大須88番地¹
- 電話番号 0225-61-7201
- ウェブサイト <https://www.sg-miyagikai.jp/>
- 設立年月日 平成11年4月6日



- (特養きたかみ事業開始年月日は、平成19年5月1日)
- (特養はしうら事業開始年月日は、平成27年3月16日)
- 事業 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、短期入所生活介護、通所介護、通所型サービス、認知症対応型共同生活介護
- 施設・事業所 特別養護老人ホームきたかみ、特別養護老人ホームはしうら、デイサービスセンターきたかみ、グループホームきたかみ

■ 社会貢献事業

(1) 環境美化活動

地元で実施しているクリーン作戦に合わせて早朝に施設周辺のゴミ拾いを行ったり、敷地内にある花壇の花植えや施設周辺の市道の除草作業、カーブミラーの拭き掃除などを行ったりして、施設のある橋浦大須地区の環境美化に取り組んでいます。

(2) 地域と連携した災害対策の強化

災害時の福祉避難所として特別養護老人ホームはしうらと特別養護老人ホームきたかみが石巻市と協定を結んでいます。特別養護老人ホームはしうらは津波避難ビルとしても市の指定も受けています。災害への対応においては、地域との連携が不可欠であることから、住民の協力が得られるよう橋浦大須地区の方々と災害協力隊が形成され連携を深めています。

(3) 研修会等への講師派遣や体験学習の受け入れ

北上地区の民生委員児童委員等を対象とした介護教室の開催や、認知症研修会の講師として職員を派遣しています。また、コロナ禍前には、小中学生の施設交流や福祉・介護に関心のある高校生の介護体験学習の受け入れを行っていました。

——今回は高齢福祉を担う社会福祉法人として、みやぎ会さんをご紹介します。みやぎ会さんは青森県、岩手県、宮城県、福島県で介護保険サービスを中心に事業展開をしており、法人事務局は八戸市内にあります。「みやぎ」という名称から宮城県をイメージするかもしれませんが、青森県三戸郡八戸城という意味の「三八城(みやぎ)」という名前に由来しています。

北上地区において平成19年から事業を開始しました。それでは、「きたかみ」さん、「はしうら」さんとして行っている社会貢献事業についてお聞かせください。



左がきたかみ施設長武山泰徳さん、中央が事務部長佐藤圭一さん、右が介護主任澤村めぐみさん

武山：当方で行っている社会貢献事業としては、石巻市のクリーン作戦が例年5月頃にあるので、それにあわせて早朝のゴミ拾いなどを行っています。それから施設周辺の市道の除草作業、カーブミラーの拭き掃除なども行っています。施設として率先して積極的に活動を行っています。

福祉避難所については、特別養護老人ホーム「きたかみ」が石巻市と平成25

年1月25日に協定を結んでいて、災害時には福祉避難所としての役割を果たすこととなります。

地域のボランティアの受け入れについては、コロナ禍の中で遠慮していただいています。今後はダンベル体操を行っているグループの方々と相談し、感染対策をしながら、受け入れも検討していかなければならないと考えています。



橋浦大須地区でのカーブミラー清掃の様子

澤村：夏祭りなどに関してもコロナ禍前には、大々的に地域へチラシを配り、お知らせをして参加を呼びかけて行ってきましたが、現在は中止している状況です。——コロナ前はいろんな活動をされていた印象がありました。

その中で、施設の夏祭りなどは、施設の中だけではなく、多くの地域の子もたちが来ていましたよね。

武山：そうなんです。コロナ前は、地区の春祈禱などでは施設に来ていただき、獅子舞いなども行っていました。施設も地域の一員として一緒に参加していました。

最近では、一時コロナ感染状況が落ち着いた際には、北上小学校から児童たちが来て、よさこい踊りなどを披露していただきましたね。

—以前、民生委員児童委員さんの研修の場として、施設見学や介護技術の勉強会もありましたね。介護技術に関しては、施設側の持っているノウハウがたくさんあるので教えていただいてとても良かったと思っていました。コロナ禍で難しいと思うのですが、そういった機会について現在はいかがでしょう。

武山：先日、北上地域包括支援センターから、認知症の研修会で施設から講師として出していただけないかとの依頼がありました。また、明後日（令和4年9月9日）には、北上保健医療センターに石巻赤十字病院の看護師から「認知症について」と題して講演会が開催されるので、こちらからも積極的に参加し、相互に協力体制があると思っています。



北上地域包括支援センター主催
「認知症カフェ」への協力

—先ほどの福祉避難所もそうですが、特養はしうらさんでは津波避難ビルにも

指定されており、施設が立地している橋浦大須地区の住民にとって有事の際には避難できる安心感はあるのではないのでしょうか。

佐藤：そうですね。高い場所がない地域なので安心感はあると思います。



津波避難ビルにもなっている「特別
養護老人ホームはしうら」の全景

—規模の大きい施設があることで、北上地区での雇用創出にも繋がっていると思いますがいかがでしょう。

武山：当時、北上には、これほどの規模の施設や会社はなかったので、この施設ができたことで、働ける場所として、多くの地域の人たちを採用しております。すべてが介護職だけではなく、厨房の調理員や介護補助、清掃業務に携わっていただいております。北上地域の雇用の場所にもなり、地域の人たちの働ける場所にもなっています。

これからも、地域と一緒に運営を続けていかなければならないと考えています。—今後も台風や大雨、地震などによる被害は避けられないものだと思うのですが、策定が義務付けされている業務継続

計画（BCP）（※1）において、地域の方の協力についてはどうなっていますでしょうか。

武山：設立当初から地元の方の協力をいただかなければならないという話があり、平成26年6月10日に災害協力隊を設置して、橋浦大須地区に住んでいる8の方に協力隊をお願いしています。施設では避難訓練を実施していますが、これからは、災害協力隊の方々にも声をかけて訓練を行っていかねばならないと考えています。

——職員だけでの入居者の避難は、限界があり、大変だと思います。

佐藤：危機管理に関しては、職員は高い意識を持っていますので、避難が必要なきときにはすぐ施設に集まっていただいています。

武山：垂直避難として特別養護老人ホームはしうらに避難する訓練も行っています。車に乗ることができる利用者は職員の運転による車で、それから介助が必要な利用者は介助による車いすで、それぞれ訓練を行っています。裏の出入口からスロープを使って出る訓練も行っています。ただし、職員にしても、協力隊にしても自分自身の命が優先であることには変わりません。

——資格取得による実習受け入れなど、人材育成についてはいかがでしょうか。

澤村：特に資格取得の受け入れのための実習は現在行っていません。ただし、小学生や中学生を対象とした介護の体験

を通して、利用者様と交流したりしています。今年は仙台市から高校生が来て施設見学なども行っていきました。



小学生による避難体験の様子

——震災後からコロナ前までは、県外の高校生がボランティア活動として来ていましたね。

武山：高校生のボランティア活動は、残念ながらコロナ禍により現在続いていませんね。

——今後、社会福祉法人の連携を進めていく必要があるのですが、そこに期待したいことや提案したい課題はありますか。

武山：人材の確保が一番の課題だと思います。働いていて楽しい、周りの方が優しい働きやすい場所であることが大事だと思います。

佐藤：ここでは、設立当初から働いている方もいるので、勤続年数が15年の方もいます。ただし、人材確保は難しいですね。

澤村：当方では、飯野川地区に職員用のアパートを確保しているので、そこから15分くらいで通勤可能です。

武山：雇用に関しては行政の方でも働きかけてもらいたいと思っていますが、地域の広報誌で一般社団法人ウィーアーン北上さんが発行しているので、イベント等のお知らせとあわせて、職員の募集も掲載して欲しいとお願いしています。



ることができ、アットホームな雰囲気になっている場面も見られます。

インタビューは、地域と密着した事業展開をなさっているみやぎ会さんの存在が心強く感じられる内容となりました。

石巻市社会福祉協議会北上支所の事務所（石巻市北上保健医療センターひまわり内）は、特別養護老人ホームきたかみさんと敷地が隣接しているので、今後も地域を支えていく存在として共に頑張っていきたいと思います。

※ 1. 事業継続計画（BCP）

大地震等の自然災害、感染症のまん延、テロ等の事件、大事故、サプライチェーン（供給網）の途絶、突発的な経営環境の変化など不測の事態が発生しても、被害を最小限に抑えながら必要なサービスは継続し、休止したサービスは可能な限り短い時間で再開させることをどのように進めていくか、方針、体制、手順等を示した計画のこと。業務継続計画とも言う。

— インタビューを終えて —

日頃から施設が立地している地域との相互関係を大切にしながら施設運営をなさっていると強く感じました。

また、地域内にある関係機関とも連携しながら北上地区を支えており、地域に密着していることも実感できました。

スタッフの中には地元住民がいるため、サービスを利用している高齢者の方にとっては息子や娘、孫のような感覚で接す